千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）
へのご意見について

本編(別紙1)・概要版（別紙2）への意見のまとめ	1～11ページ
現計画の個別施策（別紙3）についての意見のまとめ	12ページ
その他の意見のまとめ	13,14ページ

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
1	第1章	本編P3	田所委員	**【庁内連携】** ・環境局と経済農政局との調和・連携は具体的にどのようなことを行っているのか？	
2		本編P3	田所委員	**【農業基本計画、谷津田・森林関係の施策】** ・特に都市農業振興基本法は、若葉区・緑区の広大な緑地が存在するにも関わらず、当該基本計画に記載が乏しい。 ・Ｐ３関連で、谷津田・森林と農地に対する具体策が見当たらない。耕作放棄地や里山の荒廃に対する積極的施策を基本計画にも盛込むべきである。	
3		本編P3	田所委員	**【ステークホルダーの協議の場】** ・まちづくりプランには市民等の参加がうたわれている。また、グリーンインフラ推進戦略は、官民連携プラットフォームの設置を唱っているが、ステークホルダーの協議の場の具体例を提示してほしい。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
4	第2章	本編 P6	菊池委員	**【緑と水辺の各フィードでの取組：書きぶり】** 項目見出しの下に、何を書いているのかの説明があった方がよいのではないか？なぜ、以下に続く項目（公園、街路樹、川辺、、、等施策全般まで）が出てきたのか、その項目の中で、どのような視点で取りまとめをしているのか（施策の展開状況を報告しているのか）がわかりにくい印象を受けます。	
5		本編 P9	菊池委員	**【緑と水辺の各フィードでの取組：記載の順番】** 項目（公園、街路樹、川辺、、、花の空間）に共通する内容であれば、最後ではなく、最初の方がよいのではないか？	
6		本編 P9	永野委員	**【緑と水辺の各フィードでの取組：関わる人、情報・顕彰】** ・里山→都市→海の姿がよく伝わる。こういった伝える力のある素材に”戦略”を組み合わせることで参加促進効果を醸成できるのではないか。 →戦略例２：楽しい競争を生む（戦略の具現化例：地域をチーム化し各地域住民による緑と水辺のまちづくりへの取り組みをポイント化＆アプリで可視化して競う。指標は多様に設定して各地域の良さが見えるようにする。インセンティブ有。神輿にも似た意欲を楽しく創出）	
7		概要版	永野委員	**【緑と水辺の現状と課題 ：書きぶり】** 現状把握は高度であると考える。（一点、親水「護岸」が少ないという認識は、市民アンケートの声と乖離があるように感じる）	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
8	第3章	本編 P14	永野委員	**【計画のテーマ】** ・ビジョンも示されている。（但し、表現上「縄文」が引きと論拠を同時に担っており一語の負う負荷が大きいと感じる。現代の千葉市の独自性との対比を用いてより力強く伝えることが可能であると考える）	〇 テーマの印象を伺いたい
9		本編 P15	木下会長 押田副会長 安立委員 菊池委員	**【レイヤーの順番】** ・第１レイヤーと第３レイヤーの順番の入替えた方がよい。地と図の関係のように、フィールドの上に活動が位置づく構図がよい（木下会長、押田副会長）。 ・第１レイヤーと第３レイヤーの順番を逆にした方が良い。一番下に土地があり、ウェディングケーキみたいに少しずつ箱が小さくなって、一番上に人々がいるイメージの方が理解しやすい。SDGs にもそのような図がある（安立委員）。 ・レイヤーの順が逆ではないか？下から、「千葉市の緑と水辺（図）」→「全市レベル」→「地域レベル」→「関わる人々」にした方がよいのではないか？その理由として、緑と水辺というハードがあってこそ、関わる人々という活動やソフトが成り立つということを視覚的に伝えた方がよいため（菊池委員）。	〇 議論する
10		本編 P15	押田副会長 松浦委員	**【レイヤーの名称】** ・レイヤーの名称について、ナンバリングよりも、例えば、全市レベルのレイヤーとか、身近なレイヤーとか、スケール感が分かるような名称がよい（押田副会長）。 ・「地域レベル」とあるが、広域レベルに誤解される可能性があるため、「近隣レベル」・「区レベル」等の別の用語に変えては如何か？（松浦委員）	〇 議論する
11		本編 P16	菊池委員	**【第1レイヤーの書きぶり】** ・これまで、2放射、3環状の説明が見当たらなかったので、唐突感がある。関連する図を入れるべきではないか？	
12		本編 P17	菊池委員	**【図の並びの工夫】** ・図の羅列で何を伝えたいのか不明である。図のスケールも、上段（目指す緑と水辺の姿）と下段（広域計画（平面図））は全く違う（広域計画の2枚の図面もスケールが違う）。全体から細部に落とし込むような説明となるように順序を工夫した方がよいのではないか？計画が上位計画から下位計画ときちんとつながっていることを伝えた方がよいと思われる。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
13	第3章	本編P17	永野委員	**【断面図】** ・里山→都市→海の姿がよく伝わる。こういった伝える力のある素材に”戦略”を組み合わせることで参加促進効果を醸成できるのではないか。 →戦略例１：感動を生む（戦略の具現化例：自然に還る素材でハスの花をつくりそれに火をつけて川に流すイベントを象徴的に開催。夕暮れ、人の思いをのせたハスの灯の筋が流れ、世界有数の巨大都市東京と富士山を望む海へ注ぐ。要、川と海への特別な親しみを生む演出）	
14		本編P18,19	菊池委員	**【写真の挿入】** ・公園の配置だけではなく、公園の代表的な写真（景観写真）を出した方がよいのではないか。図面だけでは魅力が伝わらない。	
15		本編P20	安立委員 菊池委員	**【地域レベルのレイヤーの順番等】** 上下を逆が良いと思いました。一番下に土地、ウェディングケーキみたいに少しづつ箱が小さくなり、一番上に人々がいるイメージが理解しやすいと思いました。SDGｓにもそんな図があります。（安立委員） ①同ページの（2）、（3）のどちらを説明する図なのかがわからない。 ②レイヤーの順が逆ではないか？現在、下段にある「緑と水辺に関わる人々と生き物」は上段の方がわかりやすいと思われる（15の図と同様の構成）。（菊池委員）	
16		本編P21	押田副会長	**【地域レベルのポンチ絵】** ・⇔の上にある人や鳥について、分かりにくい。凡例の表現を工夫した方がよい。	
17		本編P21	菊池委員	**【書きぶり】** ・ここで、地域レベルの空間（公園、海辺、川辺、、、の図）の名称が出てくる。その前（P6）でこの区分が使われているので、早い段階で説明した方がよいのではないか？	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
18	第3章	本編P21	菊池委員	**【グリーンインフラ】** ①千葉市においてグリーンインフラは何？という部分がない。単に、国が、周りがやっているから、それに遅れないように、グリーンインフラに取り組みます的に読めるのがもったいない。国のグリーンインフラ官民連携プラットフォームに登録しているから位置づけます、ということではないのではないか？ ②グリーンインフラを位置づけていくことはわかるが、それをすることが千葉市にとってどのように良いのかが読み取れない。	
19		本編P22	菊池委員	**【本計画のポイント：書きぶり】** ①見出し（項目）のレベルが違う。川辺だけが特別に書かれているように見える。別紙2（概要版）での「本計画のポイント」と対応させるのであれば、ここではグリーンインフラは使わない方がよいのではないか？ ②同、冒頭から3行は、前掲の（1）の内容に見える（今後の推進施策のポイントとして～取組んでいきます）。「本計画のポイント」に揚げている内容に絞った方がわかりやすい。	
20		概要版	押田副会長	**【計画のポイント：色】** ・強調したい気持ちは分かるがピンク色が強い。淡い色に変更してほしい。	
21		概要版	菊池委員	**【計画のポイント：書きぶり】** ①骨子案と表現が対応していない。 ②残りの2つ（グリーンインフラ、都市デザイン）とタイトルと内容の構成が違う。グリーンインフラと都市デザインは、タイトルと内容という組み合わせになっているが、「川辺での施策充実」は内容の文章を短くしたものがタイトルになっている。	
22		概要版	菊池委員	**【第1レイヤーの書きぶり】** ・2放射、3環状はそれぞれ色をあわせる等、図と文章が対応して読みやすくした方がよい。	
23		本編P24	菊池委員	**【項目の順番】** ・項目の順序が不明。施策全般と項目は異なるのではないか？項目は、空間名称、施策全般は空間名称ではない。一覧で示す場合も、羅列するのではなく、項目（空間名称）の上位もしくは下位（＝共通する内容だから）に位置づける等した方がわかりやすいのではないか？また、括弧書きがない方が分かりやすいのではないか？	〇 議論する

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
24	第4章	本編 P24	松浦委員	**【グリーンインフラの型式】** ・グリーンインフラの取り組み推進の方向性の表で、【保全型】と【活用型】の違いが不明瞭に見えた。例えば、街路樹の「豪雨時の～街路環境の改善について検討」は【保全型】になっているが、【活用型】ではないか。	〇 議論する
25		本編 P24	松浦委員	**【施策の優先順位付け】** ・施策に優先順位を付けてはどうか？例えば、今回の計画では「川辺」に力を入れるので、「川辺」を優先順位大にするといった具合に。A：優先順位大、B：優先順位中、C：優先順位小くらいの３段階くらいに分けるイメージか（実施計画毎に優先順位を変えるという手もありますね）。	
26		本編 P24	永野委員	**【施策全体にわたって】** ・各領域で現実的なアクションプランも示されている。	
27		本編 P24	菊池委員	**【公園】** ①水の話が多い。グリーンインフラは、水だけではない。これまでの緑の機能が網羅されるべきではないか？例えば、CO2吸収固定、夏季の暑熱環境の改善等。 ②トイレの話は重要だが、グリーンインフラの取組推進の方向性に入れると、つながりが不明。トイレはグリーンインフラに含まれるのか？	
28		本編 P24	相澤委員	**【公園】** ・機能分担の中に「子育て」と入っていますが、具体的にはどのような内容・年齢を想定されているのか伺いたい。公園間での機能分担（子育て、防災、農との触れ合い等）とあるが、実際には公園から特徴的な遊具は撤去され（おそらく老朽化だけでなく、遊具で子どもがケガした、集まって遊ぶ声がうるさい等の苦情のせいもあると思いますが…）、新しく設置される遊具は対象年齢が低め（幼児～低学年用）のものが多く、小中学生の姿が公園から激減するような場面を見てきた。「遊具がつまらなくなったから普段は公園には行かない。（プレーパークの時だけ来る）」なんて声も聞きます。同時に、高齢者用の健康器具のような物はすごく増え、公の園というよりは老園のような雰囲気を感じてしまうことも…それはそれで大切ですが。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
29	第4章	本編P24	相澤委員	**【公園】** ・公園内に植えてある毒性植物スイセンとかキョウチクトウ等、言い出したらキリが無いとは思いますが…子どもが日常的に遊ぶ公園等の空間からはできるだけ撤去できた方が良いと思います。もしくは、学校単位で注意喚起の授業を行う等。	
30		本編P24	菊池委員	**【街路樹】** ①公園同様、水の話が多い。街路樹であれば、四季・彩のある景観づくり、線の生物多様性ネットワーク等。 ②街路環境（主に根茎の環境整備？）の改善がわかりにくい。	
31		本編P24	田所委員	**【川辺】** 川辺は川幅が狭く、親水施策がむずかしいとしているが、一方で「川辺の施策充実」を唱っている。市民の親水性を高める具体策を教えてほしい。	
32		本編P24	菊池委員	**【海辺】** 具体性がなく、ほかの項目とのレベル感が違う（2つ目「海辺（人工海浜・港）における官民連携での魅力向上の取組を引き続き推進」）。	
33		本編P24	菊池委員	**【海辺】** ・官民連携は海辺だけではなく、全体に共通する内容ではないのか？	
34		本編P24	安立委員	**【谷津田・森林】** ・施策の方向性に生物多様性保全という言葉を入れてほしい。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
35	第4章	本編 P24	安立委員	**【谷津田・森林】** ・２ポツ目に「土中環境の改善」とあるが、「土壌環境の改善」とした方が一般的には理解しやすい。また、土壌の表面の状態も植物や土壌動物に対してはとても大切なので「土中」という表現は誤解されやすく適切ではないと思う。	
36		本編 P24	安立委員	**【谷津田・森林】** ・4ポツ目の文章を「田んぼづくりや湿地の保全」と加筆頂きたい。	
37		本編 P24	押田副会長	**【谷津田・森林】** ・森林での取組について、千葉市は全国に先駆けて、公開型の林として、「市民の森」の取組を展開し、「市民緑地」として法制度化した後は市民緑地の指定をしているため、「市民が立入ることが可能な・・・」の文頭にこれらのキーワードを例示した方がよい。市民緑地等は課題も多く、指定が進まないことは知っているが、検討してほしい。	
38		本編 P24	田所委員	**【谷津田・森林】** 市民が身近に立ち入って遊びが楽しめる施策を展開してほしい。例えば、源町の子どもたちのプレパークを小倉台・千城台等の団地の近くにつくってほしい。「小倉の森」や「大草生きものの里」の一画にプレパークの設置を要望したい。	
39		本編 P24	菊池委員	**【谷津田・森林】** ①谷津田と森林が同じ項目なのが不明。谷津田＝里山ということか。谷津田＝田（農地）というイメージがあり、森林と一緒にまとめられているが不思議。 ②緑地保全、緑地管理という語は、全てに（公園も川辺も海辺も緑地）共通するのではないか？ここで、緑地保全・緑地管理とすると、谷津田・森林＝緑地とならないか？	
40		本編 P24	菊池委員	**【谷津田・森林】** 谷津田、森林を骨格と位置付けるということか？	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
41	第4章	本編 P24	田所委員	【農地】 ・ソーラーシェアリング支援の具体策を教えてほしい。	
42		本編 P24	田所委員	【農地】 ・市民農園開設の具体的計画を教えてほしい。	
43		本編 P24	相澤委員	【空閑地】 ・公共活動に取り組む市民団体は数多くあり、特に「子ども食堂」や「フリースクール」「プレーパーク」等はそのニーズの高さに比べて支援の制度が未発達な部分が否めません。食べない子、学ばない子、遊ばない子は存在せず、子育て支援の中でも特に民間がリードしている分野と感じています。その民間がより活動し易くなるような1つの行政支援として、空閑地と必要団体のマッチングが実装されてほしいと願っています。上記以外にも、アート体験・まちライブラリー・（特に貧困世帯への）学習支援・子どもの居場所づくり・防災拠点としての活用等、活動が素敵で公共福祉に利しているのにお金のない団体が有効に活用できるような使い方を検討し、具体的に盛り込んでほしいです。例えば行政が持ち主と折衝し、障がい者福祉団体が利用者と一緒に大まかな整備や掃除を請け負い（シルバーの方々でも素敵ですよね）、実際の利用団体へ引き渡す、とか。仕組みづくりが大変ですが…公共性が高まってさまざまな方へ価値を感じていただけるように思います。	
44		本編 P24	押田副会長	【花の空間】 ・オオガハスが何たるかを分かるように、どこかにオオガハスの説明を追加したほうがよい。地域レベルの緑と水辺の姿でも花托の話も出ているし。	
45		本編 P24	菊池委員	【花の空間】 ・オオガハスの取組の充実という表現が唐突すぎる。	
46		本編 P24	押田副会長	【施策全般】 ・景観保全の話は、川辺と海辺だけでなく、緑と水辺のフィールド全般に関わるものであるため、施策全般で記載するような形にした方がよい。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
47	第4章	本編 P24	押田 副会長	**【施策全般】** ・まちづくりのプレイヤーとして、意欲ある一個人も支援するとあるが、意欲ある方が何人ぐらいか、把握できているのか。	
48		本編 P24	永野 委員	**【市民参加】** 重要課題として挙がっている市民参加という点でそれを促す戦略が十分ではないと考える。支援・表彰等行政から市民への付与の姿勢は示されているが、より広く人を惹きつけ、主体化し、参加意欲を醸成していくには不十分と考える。持続可能性は市民参加から生まれると委員会でも審議している現状を鑑み、人の心を動かし、うねりの芽を生む「戦略案」そのものも計画に盛り込むべきではないか。	
49		本編 P25	押田 副会長	**【目標値】** ・目標値について、第３章のレイヤー構造とのつながりが分かるような記載を追加してほしい。例えば、満足度の項目＠地域レベルとか。目標値とレイヤーとのつながりを明記。	
50		本編 P25	永野 委員	**【目標値】** ・専ら定量データの取得を前提に目標と到達度が示されており、定性的な指標が不足していると考えられる。第１回の委員会でも「質」に関する議論がなされていたが、言うは易しであることを承知のうえで、定性的な指標も取り入れられたら良いと思う。長期的に多様な実りを生むと考える。まずは定性的な指標を取り入れるという意思表示をするだけでも意義があるのではないか。	
51		本編 P25	菊池 委員	**【目標値】** ①大規模な公園の利用者数は、千葉市外からの利用者もあるのではないか？全体として利用者が増えるようにするということか？ ②表彰数を成果指標にするのは難しくはないか？表彰制度がスタートしたときは、募集数が多いかもしれないが、だんだん減少することで、成果指標にしたときに達成しない、または、達成指標だから、といって無理に表彰数を増やす等の操作がされないかが不安。	〇 議論する
52		概要版	押田 副会長	**【第３章とのつながり・施策】** ・概要版においては、第３章のレイヤー構造とのつながりが分かるような記載を追加してほしい。例えば、トイレの快適化【活用型】＠地域レベルとか。取組の方向性とレイヤーとのつながりを明記。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023骨子（案）本編・概要版への意見のまとめ

No	章	対象項数	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い（〇議論する）
53	第5章	本編P26	松浦委員	**【中間評価のタイミング等】** ・３年毎に実施計画を策定、５年と１０年で評価をするとあるが、実施計画と評価の年をリンクできないか？例えば、実施計画のスパンを５年にする等。	
54	資料編	本編P33	相澤委員	**【ワークショップ】** ・ここから先を一緒に考え、子どもたちにできる社会課題の解決策を探るというのが市民参加の意味と感じていますが、このワークショップは今後も続いていくのでしょうか。 ※　ワークショップ開催、素晴らしいです！子どもたちに聞くこと・一緒に考えることがシティズンシップ教育の一歩目であり、ひいては積極的な市政参画に繋がると感じています。2030年の市政だより、興味深く拝見しました。写真右側の「全世帯に植物の種を配る」というアイデアの「全世帯」という部分に子どもらしい思い切りの良さを感じるともに、すでに「花いっぱい市民活動」を展開されている行政の皆さんとの意識のギャップも感じました。「花のタネは配っているけど、それがCO2削減や、緑や自然を増やすまちづくりに直結していないのはなぜか」という千葉市の課題を、子どもたちと一緒に解決策を考えるすごくいいチャンスと感じました。	
55		本編P35	押田副会長	**【現計画と新計画の目標設定の仕方】** ・現計画では個別事業にも目標を設けていたが、計画全体をコントロールする指標とは関連性が薄かったことや、法改正の状況等を踏まえて、新計画では、計画全体をコントロールする指標のみを設けることとしたことをどこかに記載した方がよいのではないか。	

千葉市緑と水辺のまちづくりプランの個別施策についての意見のまとめ

No	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い （○意見の披露）
1	田所 委員	**【里山地区の指定】** ・台風で荒れ果てた里山はそのままになっている。多くの里山地権者は保全義務を果たしていない。これに対する対策を提示してほしい。	
2	田所 委員	**【多目的遊水地の面積】** ・気象変動の影響で洪水のリスクが増大している。加曽利貝塚公園にも遊水機能を持たせた方が良い。鹿島川や花見川の遊水機能はどうなっているのか？	
3	菊池 委員	**【進捗が思わしくない理由や現状の補足説明】** ・後付け感がある。悪くないということを説明しているようにしか見えない。事実を述べる表現にした方がよいのでは？	

○”その他のご意見”まとめ

No	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い （○意見の披露）
1	安立 委員	**【グリーンインフラ】** 人口が多い千葉市で、市民の緑と水辺に対する満足度が高い点はとても良いと思いました。住みやすいまちづくりをすると人口が増え、人が増えると森林等の面積が減っていくというような状況が生まれやすいと思います。人が住むところと自然を守るところを区別して、それぞれを良くするというのが、グリーンインフラの観点からも良いとされています。	
2	安立 委員	**【脱炭素】** 脱炭素を強調しすぎると、人からみたら価値のない森林や草原が、太陽光パネルに置き換わるということにもなりかねません。もし「脱炭素」をお使いになるのでしたら、「緑（植物）を増やすことは脱炭素に繋がる」というような使い方をして頂ければと思います。	
3	菊池 委員	**【保全型の説明】** 「保全型」の説明で「保全」という語が入っているのに違和感がある。具体的な内容がなく、「保全」と書けば、何かやっている風に見えてしまう。	
4	相澤 委員	**【ナラ枯れ等樹木の病気】** 数年前から流行している「ナラ枯れ」に代表される樹木の病気について、対応策や流行防止のための方策は組み込めないか？詳しくないので話題提起するだけになってしまいますが、数年前から公園や〇〇の森といった色んな場所でナラ系の木がやられてしまっていると聞いています。対応したいがお金がないという話や、伐採したその後はどうするのか（新たに植える？誰が苗を買う？）、さらには病気の存在を知らない管理者（恥ずかしながら私も…）やパークマネジメントの方もいました。特に市民が管理している場所に関しては何かしらの支援が必要と感じました。	
5	相澤 委員	**【プレーパーク】** 公園の活用や森林の活用について、1つの方策としてプレーパークという方法もあります、というのを入れていただけると嬉しいです。公園や森林の活用だけでなく、そこに社会的な意義（居場所づくり、体験の場づくり、非認知や社会情動的スキルの育成、地域コミュニティ、防犯、セーフティネット＝虐待の早期発見等）がたくさんついてくる活動です。すでにある公園や自然（ストック）を活用しながら様々な機能を果たせる可能性があります。活用の1事例として盛り込んでいただけると、まちづくりにおける子育て支援への積極的な取り組みが広く内外にアピールできると考えています。	
6	長岡 委員	**【計画のテーマ】** テーマにあるストックを活かすことは大切と感じる。住宅行政の話題になるが、UR都市機構では、団地の住戸数を減らす計画があるようだが、一方で、民間では今なお新規のマンション開発を行っている。ストックをもっと活かす時代であってほしい。	

○”その他のご意見”まとめ

No	委員名	ご意見（【】の中身は本市が記載）	当日の取扱い （○意見の披露）
7	長岡 委員	**【地域への愛着】** 花見川のカヤック体験等をきっかけに、地域の歴史に興味を持ってもらい、歴史を知ることを通して、地域への愛着が湧くようなことを望んでいる。	
8	西田 委員	**【ちばし地域づくり大学校】** アイディアベースですが、担い手不足について「ちばし地域づくり大学校」との連携、または同じようなアプローチで緑と水辺の担い手の育成が考えられると思います。今年、受講の年齢制限を撤廃したことで幅広い応募があり、現役のやる気のある方々も多く、これからのフィールドを模索しておられました。	
9	西田 委員	**【公園の看板】** 花島公園、とても気持ちの良い場所でしたが、注意事項の看板が目立ちました。ニューヨークのセントラルパークのように肯定的な表示の仕方を工夫することで、千葉市民の民度が上がってくるのではと感じました。	○ 意見の披露
10	田所 委員	**【情報開示】** 市民に対する情報開示が十分ではない。 ・都川水の里公園は整備中だが、計画の全体像を委員に詳しく教えてほしい。 ・加曽利貝塚公園は計画中とのことだが、委員はその内容を全く知らされていない。	
11	田所 委員	**【共園】** 市民がほしいのは「公（官）園」ではなく、ステークホルダーが満足できる「共園」である。	
12	永野 委員	**【各委員の意見回答票】** 各委員の意見回答票は委員会メンバーおよび事務局全員でも共有のうえ、市民に公開するのが妥当ではないかと考えます。理由は下記の通り。 ・委員報酬が発生しておりアウトプットを市民は知る権利がある ・市民の声は公開されており委員の意見も同様に公開されるのが妥当 ・議題に採りあげなかった意見に重要な気づきがあるかもしれないため （実際、前回の委員会の際、他の委員の発言から重要な気づきを得られた）	